

CONTENTS

- 1 ごあいさつ
- 2 蘇生法委員会新体制のご紹介
- 3 NCPRトレーニングサイト今後の展開
- 4 NCPRスキルアップコース(仮称)のご紹介
- 8 コンセンサス2015の進行状況と今後のNCPR委員会の実施想定案
- 9 <NCPR講習会開催だより>宇治徳州会病院
- 11 <NCPR講習会開催だより>島根県立大学

ごあいさつ

細野 茂春

新生児蘇生法委員会 委員長
 日本大学医学部 小児科学系 小児科学分野 准教授
 同 総合周産期母子医療センター 室長



2010年のNCPR News letter vol.1の巻頭言で田村正徳先生が書かれたよう日本周産期・新生児医学会では新生児普及事業小委員会を組織して「全ての分娩に新生児蘇生法を習得した医療スタッフが新生児の蘇生者として立ち会うことができる体制」の確立を目指して、2007年7月から新生児蘇生法(neonatal cardiopulmonary resuscitation: NCPR)普及事業をスタートいたしました。

試算では分娩に関わる医療従事者を70,000人と想定していました。2014年9月末現在で75,414名の方々がこの講習会を受講されました。日々忙しい周産期医療の現場で勤務されている中インストラクションしていただいている方々と、この講習会の必要性を認識していただき講習会開催・共催賜りました各地区医師会、助産師会、自治体、等の各団体によるご支援のおかげでありますこと、この紙面を借りてまずは厚く御礼申し上げます。

さて、本講習会事業も7年目に入り5年の認定期間更新を迎える方々が増えてきています。現在はeラーニングの履修または公認講習会での講義の聴講によって更新手続きの申請を行う事が可能です。しかしながら認定者の方々から技術の再確認を行いたいとの要望を多数いただ

てきました。これに対応すべく、杉浦崇弘先生をワーキンググループメンバーとして更新者のための新たな講習会を設計し、現在トレーニングサイトでモニタリング講習会を開催しております。

※詳しくは、p.4～p.7の「NCPRスキルアップコース(仮称)のご紹介」をご参照ください。

2015年10月には新しい国際ガイドラインが発表されます。現在国際蘇生連絡委員会(ILCOR)の新生児部門でのタスクフォースとして田村正徳先生を中心に国際会議に参加され議論を交わしています。

※詳しくは、p.8「コンセンサス2015の進行状況と今後のNCPR委員会の実施想定案」をご参照ください。

最後になりますがこの講習会の立ち上げから献身的な活動で牽引してきた田村正徳先生が新生児蘇生法委員会委員長を退任され、後任として浅学非才の身ではありますが細野茂春が委員長の任を拝命いたしました。2年間の任期中に2015年版のガイドラインの改訂という大きな節目を迎えます。日本全国で全ての周産期医療者がより容易に蘇生法講習会を受けられるシステムの構築と質の高い講習会内容が提供できるようにアップデートの準備を進めてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

蘇生法委員会新体制のご紹介

細野 茂春

新生児蘇生法委員会 委員長

新生児蘇生法委員会は、産科領域から6名の先生を、小児科領域からは7名の先生と委員長、副委員長を含め計15名で構成いたしました。副委員長には田村正徳先生と二人三脚でこの講習会事業を構築されてきた茨聡先生に留任をお願いいたしました。従来の新生児蘇生法普及事業小委員会は発展的解消し、永続的に議論が必要な3つの課題に対して方向性を提言する小委員会を編成いたしました。

①制度改革推進小委員会 (委員長:草川 功)

蘇生法講習会の今後のあり方に関して討議していきます。

②トレーニングサイト運営小委員会 (委員長:茨 聡)

インストラクター養成講習会やインストラクターフォローアップ講習会等の開催を主目的としていたトレーニングサイトを地域でのNCPN事業の中心的役割を担う場所と位置づけ、その活動内容を検討していきます。

③ILCOR担当小委員会 (委員長:田村 正徳)

新生児蘇生法2015年版の改訂に向けて新たに設置いたしました。

また、厚生労働省班会議の課題として行われてきた低体温療法登録事業を日本周産期・新生児医学会で引き継ぐことが前年度の理事会で承認されたことに伴い新生児低体温療法に関するワーキンググループ (WG) を新生児蘇生法委員会の中で立ち上げることになりました。このWGの活動はこれまで通り低体温症例登録事業と低体温療法講習会事業の2本立てとなります。鍋谷まこと先生 (淀川キリスト教病院) に登録事業の事務局責任者をお願いいたしました。新たに症例報告として神経学的評価項目が追加されますが従来の項目を一部見直し入力作業の簡素化を図ります。解析結果は岩田欧介先生 (久留米大学) をはじめWGメンバーが英文論文として公表する方針ですのでご期待下さい。

来年2015年にはガイドラインの改訂を迎えます。ガイドライン策定後には講習会プログラム、講義資料、プロバイダー向けのテキスト、インストラクターマニュアル等のアップデート作業を行わなければなりません、機動的に活動するためそれぞれワーキンググループを立ち上げて対応する予定です。全国のインストラクターにワーキンググループの一員としてご協力願うことになるとと思いますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

NCPN委員一覧

担当理事/委員長	細野 茂春	日本大学医学部附属板橋病院 新生児科
副委員長	茨 聡	鹿児島市立病院 周産期医療センター
委員A(産科)領域	石川 源	日本医科大学 産婦人科
委員A(産科)領域	石本 人士	東海大学医学部 産婦人科
委員A(産科)領域	大浦 訓章	東京慈恵会医科大学 産婦人科
委員A(産科)領域	関沢 明彦	昭和大学医学部 産婦人科学講座
委員A(産科)領域	正岡 直樹	東京女子医科大学八千代医療センター 産婦人科
委員A(産科)領域	室月 淳	宮城県立こども病院 産婦人科
委員B(小児科)領域	加部 一彦	恩賜財団母子愛育会 総合母子保健センター愛育病院 新生児科
委員B(小児科)領域	草川 功	聖路加国際病院 小児科
委員B(小児科)領域	久保 実	石川県立中央病院 いしかわ総合母子医療センター 小児内科
委員B(小児科)領域	杉浦 崇浩	静岡済生会総合病院 小児科
委員B(小児科)領域	田村 正徳	埼玉医科大学総合医療センター 総合周産期母子医療センター
委員B(小児科)領域	和田 和子	大阪大学大学院医学系研究科 生体統合医学 小児発達医学講座小児科学
委員B(小児科)領域	和田 雅樹	新潟大学医学部総合病院 小児科

制度改革推進小委員会 委員長	草川 功	聖路加国際病院
トレーニングサイト運営小委員会 委員長	茨 聡	鹿児島市立病院
ILCOR担当小委員会 委員長	田村 正徳	埼玉大学総合医療センター

NCPR トレーニングサイト 今後の展開

茨 聡

日本周産期新生児医学会 新生児蘇生法委員会 副委員長
 トレーニングサイト運営小委員会 委員長
 鹿児島市立病院 総合周産期母子医療センター 部長

日本版新生児蘇生法普及 (NCPR) 事業の更なる発展・普及・支援体制の強化を図るべく、2011年度より全国を各地域ごとに分け、トレーニングサイトを開設しました。前号でご紹介した14カ所に岩手・千葉・神奈川・京都・大阪 (北野病院) ・兵庫の6カ所が加わり全国で20カ所の施設 (下図参照) が整備されました。

これらのサイトは、その地域におけるNCPRの中心となる施設となり、新生児蘇生法委員会が直轄する講習会等 (インストラクター養成コース、インストラクター対象フォローアップコース) が定期的で開催され、とくに地域インストラクターの育成と支援を実施してきました。

今後のトレーニングサイトとしての新たな計画をここにご紹介いたします。

(1) インストラクター対象フォローアップコース

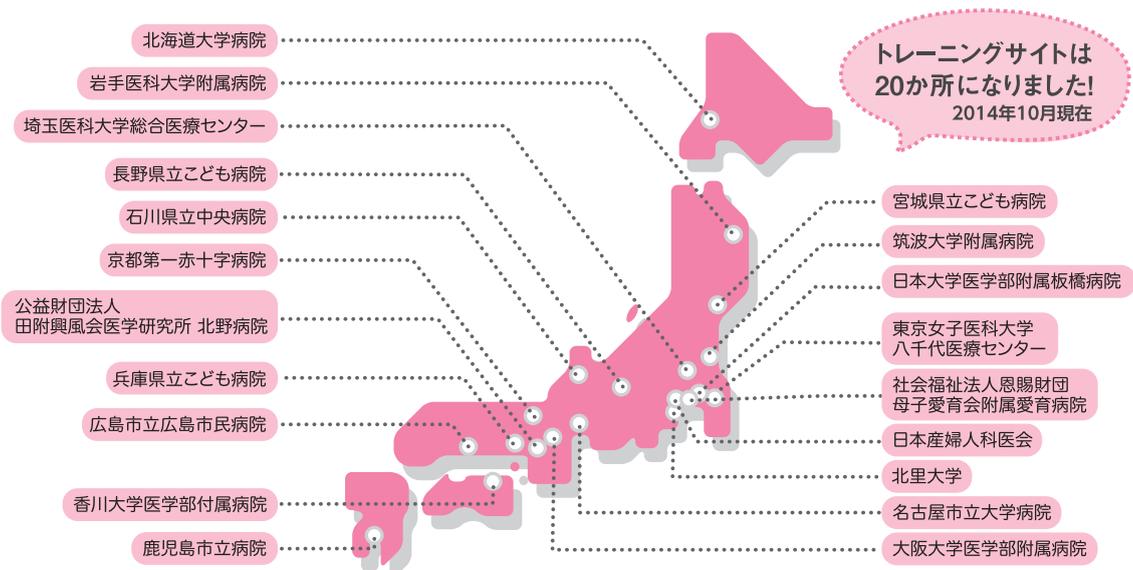
① p.4～p.7でご紹介しております「スキルアップコース」公認化に伴い、現在行っているインストラクションスキルの維持を目的とした「フォローアップコース」の内容に「スキルアップコースの説明」を織り込み、2015年4月～9月に各トレーニングサイトで実施する予定です。これにより来年度以降はトレーニン

グサイトを中心にA/Bコース修了認定者を対象とした「スキルアップコース」の全国への普及を目指します。
 ② 上記同様に2015年10月のガイドライン改訂に伴い、「ガイドライン2015アップデート説明会」を加えた内容も準備しています。2016年度は各トレーニングサイトを軸にして地域インストラクターに対して「ガイドライン2015」のスムーズな普及に努めます。

(2) インストラクターのトレーニングサイト登録制の実施

資格を取得してもなかなか活動できないインストラクターへの支援やインストラクションの「質の均一化」を目的とし、2015年度より「トレーニングサイト登録制」を導入する予定です。登録したトレーニングサイト主催の公認講習会 (A/Bコース、スキルアップコース) で、インストラクションの経験を積める機会を提供します。さらに地域のインストラクター同士の横のつながりを持っていただけるような活動を検討しています。

今後もトレーニングサイトの有効活用により、新生児蘇生法の更なる普及と地域指導体制の充実に努めてまいります。関係者の皆様におかれましては、より一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。



NCPRスキルアップコース(仮称)のご紹介

～より手軽で、より身近な復習コース!～

杉浦 崇浩

静岡済生会総合病院 新生児科 (小児科)

皆さんはNCPRのA/Bコースを受講した後、その知識や技術に不安を覚えたことはありませんか？NCPRを臨床現場で活かし、研鑽を積み重ねている方もいらっしゃる、実際突然訪れる新生児仮死、その現場に出会うことなく日々その知識・特に技術に不安が募る方も多いと思われます。新生児蘇生が必要な赤ちゃんはある一定の確率で『必ず』しかも『突然』あなたの前に訪れます。いつ訪れるかわからないその時に備え、いつでもNCPRを現場で使えるように復習することはとても大切なことです。

そこで今回新生児蘇生法委員会では新たに、修了認定者の皆さんの『蘇生技術の質の維持』を目的としたNCPRスキルアップコース(仮称)の新設を予定しています。

このコースは従来のA/Bコースと同様の「講義」

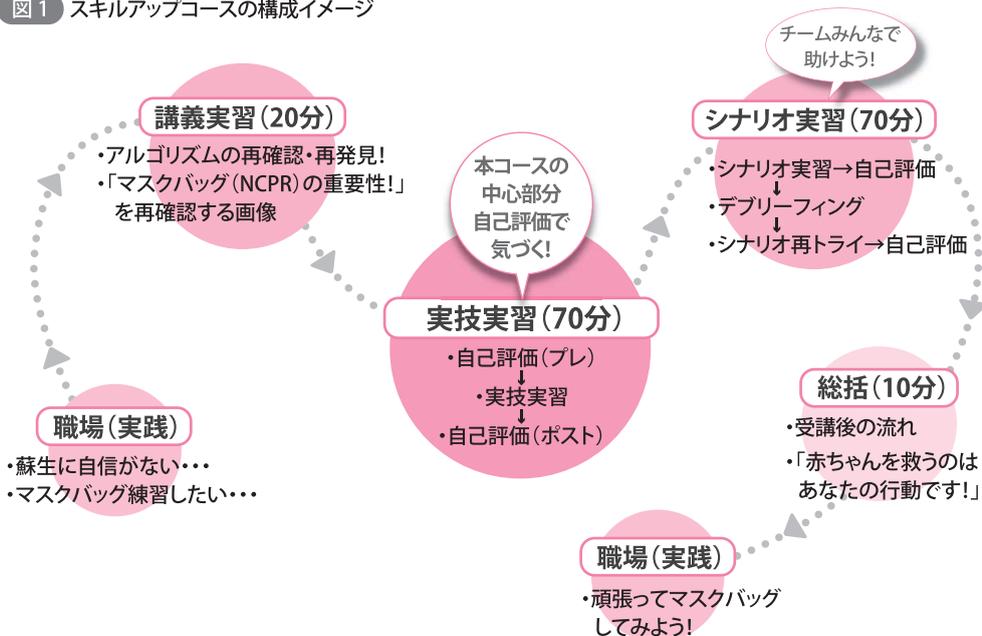
「手技実習」「シナリオ実習」の三つの要素で構成されていますが、eラーニングやテキストを用い自分で復習可能な「講義」の時間を極力短縮し、「手技実習」と「シナリオ実習」により多くの時間を配分しています。すなわち、このコースは皆さんの新生児蘇生の手技をもう一度振り返り、復習する「実技」を重視したコースと言えます。また皆さんの日頃の学習をサポートできるよう、幾つかの新しい教材(アイテム)をご用意しました。

ここで簡単に本コースの概要とそのトライアル版の開催状況について皆さんにご報告します。

スキルアップコース(仮称)のコンセプト・構成 (図1)

このコースにかかる時間は合計3時間となっていますが、講義は最小限の復習として20分と短く、その分を手技実習(70分)・シナリオ実習(70

図1 スキルアップコースの構成イメージ



分)の実技に多くの時間を配分しています。すなわち『蘇生技術の質の維持』を柱としています。また受講者は1ブース最大6名と従来のA/Bコースより少なく濃密な実習が受けられることとなります。

また、各手技・シナリオ共に再確認を手助けするためにチェックシートを用意しています。このチェックシートにより自分が磨きをかけるべき点、注意すべき点、確認すべき点などが明確になり、『皆さん自身による学習・復習』が簡便に行えることを目的に作成しました。

このコースには実際に皆さんの『手』が、皆さんの目の前の『あかちゃん』を助けている事実を改めて思い起こすようなメッセージが込められています。

実技・シナリオ実習の実際
～強い味方、チェックシート～

このコースでは実技・シナリオともに新生児蘇生で最も重要な手技である①人工呼吸・②人工呼吸+胸骨圧迫について実施します。

【手技実習の実際】

手技実習に先立ち受講者の皆さんは自分が蘇生手技(例えば流量膨張式バッグを用いた人工呼吸)について自信を持ってできるか、不安があるとすればそれはどこか、ということについてチェックシートを用いて確認します(図2)。事前の自己評価を終えたらインストラクターと一緒に実際に蘇生手技を行います。必要に応じインストラクターのアドバイスを受けながら手技を実施し、終わったあとに再度チェックシートで不安点が解決されたか、さらに確認・復習すべき点がないかを確認しま

図2

③-2人工呼吸(流量膨張式バッグ)チェックシート

前後 *しっかりと実施できる(できた)と思う項目にチェックを入れてみましょう

【知識】

- 人工呼吸開始の基準を理解している
- 正期産児の場合、空気を使用して人工呼吸を開始する
- 在胎32週未満の早産児の場合、30～40%の酸素濃度で人工呼吸を開始する

【準備】

- 圧力計(圧マノメーター)が装着する
- 流量は5～10Lである
- マスクは鼻と口を覆うが眼にはかからないサイズを選択する

【実技】

- 肩枕を使用しスニフティングポジションをとる(気道開通を確認する)
- ICクランプ法でマスクと児の下顎を保持する
- マスクを顔に密着させる
- 20～30cmH2Oの圧で人工呼吸を開始する
- 40～60回/分で人工呼吸を行う
- 胸部の動きを確認する

新生児の蘇生法アルゴリズム

メモ

名前

す。同じように人工呼吸+胸骨圧迫の手技についても同様の流れ(①事前チェック・②手技実施・③事後チェック)で実施します。

チェックシートは蘇生処置の手技ごと(初期処置、CPAP、人工呼吸、胸骨圧迫、薬剤投与、気管挿管など)に用意されていて、時間に余裕のある場合や何度も受講する場合は他の手技についても演習を行うことが可能です。

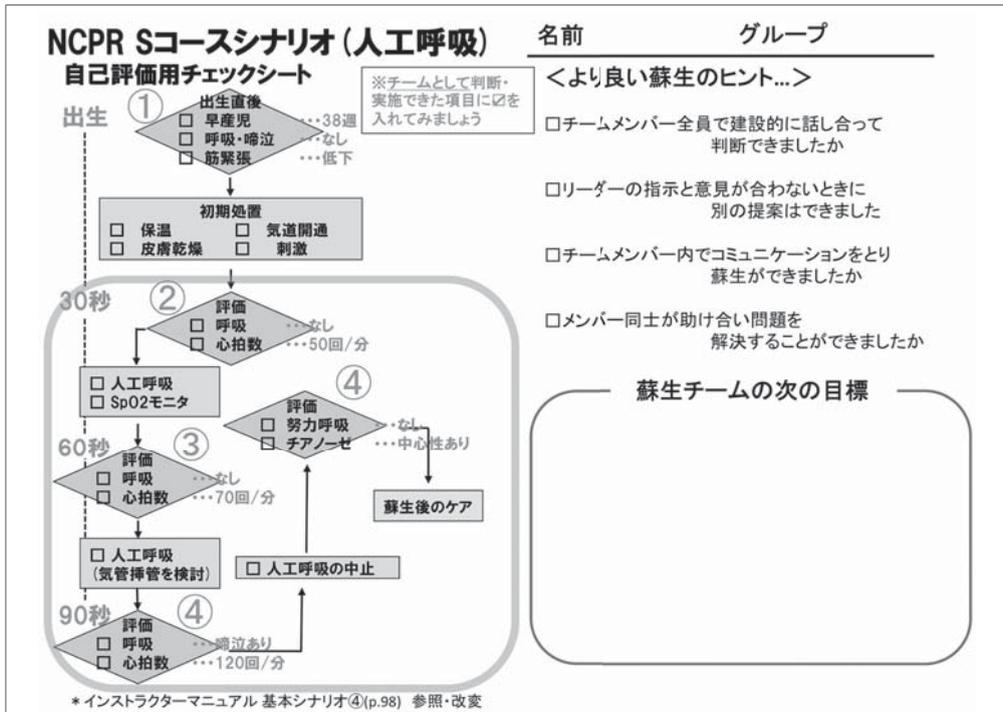
【シナリオ実習の実際】

シナリオ演習では①症例の振り返り(デブリーフィング)をしっかりと実施②(個人でなく)チームであかちゃんを助けることに重点を置いています。

シナリオ演習は受講者数名(3名程)でチームをつくり、従来のようなリーダー役を事前に確定せず、チーム全員でシナリオ演習を実施します。受講者が6名の場合各チーム2例ずつ、合計4例のシ

ナリオ演習を実施します。1回目のシナリオ終了後、チェックシート(図3)を用い自己評価を行うことで、そのシナリオ症例に対し、チームとしてどんな評価を実施し、どんな行動をとったか、またどこが不十分であったかなど、今まで曖昧となりがちだった振り返り(デブリーフィング)を正確・詳細に行うことができます。それによってシナリオ演習から得られる『気づき』を簡便に整理することができるかもしれません。またこのチェックシートには『チームワーク』『コミュニケーション』といった点についてのヒントが記述されています。実際の新生児蘇生は個々の手技はもちろんですが、チームワークやコミュニケーションもとても重要な要素です。これらを基に同じチームでより良い新生児蘇生が行えるように『チームの目標』を設定することで、2回目のシナリオ演習がより有効に実施できるでしょう。もし時間が許せばもう1症例この演習を繰り返すことも可能です。

図 3



トライアル版の開催状況

2014年の3月に東京Cトレーニングサイト（日本大学医学部附属板橋病院）を皮切りとし、これまで各トレーニングサイトを中心に本コースのトライアル版が開催されています（図4）。2014年11月現在で26回の開催となり、今後も各トレーニングサイト等で順次開催予定となっています。このトライアル版では皆さんにとってより良いコースを目指し、受講者の皆さんにアンケートにご協力いただきコース評価を実施しています。現段階で手技・シナリオ実習に対する有用性はもとより最初は少し戸惑いがちなチェックシートの使用についてもかなり有用であるとの評価をいただいています（図5）。また受講者の皆さま全員にこのコースの受講を推奨していただいています（図6）。

現在このトライアル版での評価を分析し、改善が必要と思われる箇所を修正した上で、2015年春新たな「公認講習会」としてスタートする予定です。

また、インストラクターの皆さまには、公認化スタートと同時に本コースの開催の手引きや講義スライド、またコース実施時にご利用いただける動画などのツールをお届けいたしますので、是非開催にご協力をお願いいたします。

<最後に>

「日々の臨床の現場で継続的に復習が行われること」は新生児蘇生の質を維持するための重要なポイントです。皆さんの『手』が、皆さんの目の前の『あかちゃん』を助けます。全国各地でこのコースが開催され、皆さんの『蘇生技術の質の維持』、そしてあかちゃんの予後の改善に結びつくことを願っています。

図4 トライアル版開催状況

開催回数:26回
参加者数:163名
(2014.11現在)

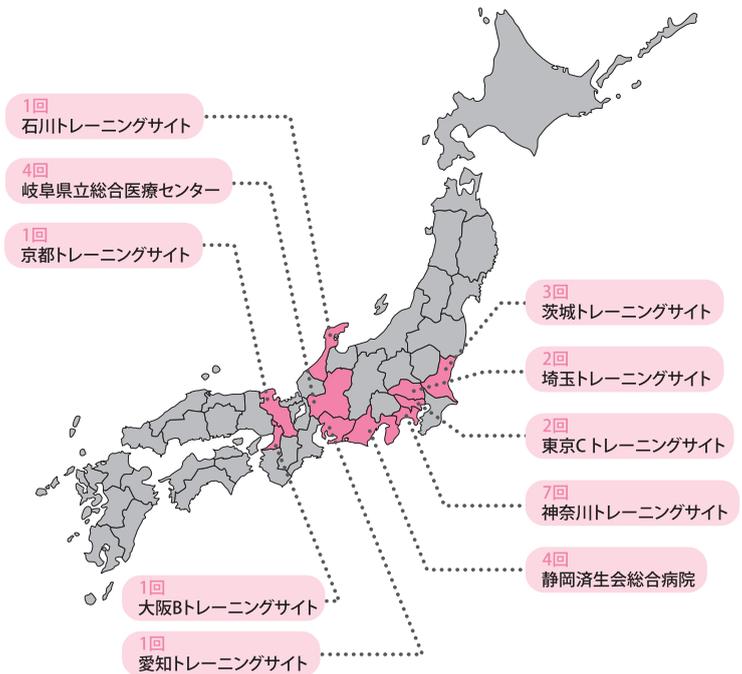
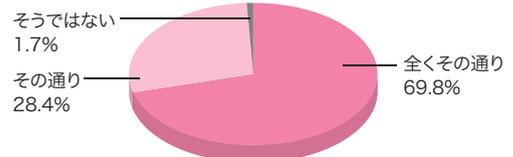


図5 チェックリストの有用性

Q. 手技チェックリストは有用?



Q. シナリオチェックリストは有用?

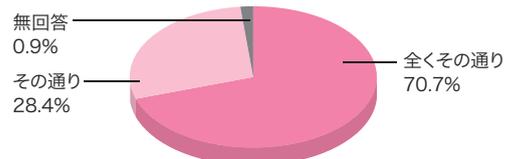
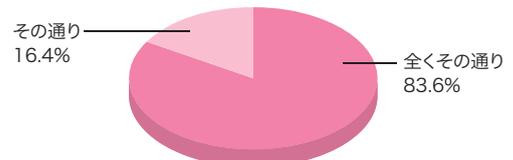


図6 コース推奨度

Q. このコースの受講を勧めますか?



コンセンサス2015の進行状況と 今後のNCPR委員会の実施想定案

田村 正徳

日本蘇生協議会・日本救急医療財団合同ガイドライン作成作業部会NEO共同座長
ILCOR担当小委員会 委員長
埼玉医科大学総合医療センター小児科学教室教授
同・総合周産期母子医療センター長

1. ILCOR新生児部会でのConsensus2015の 進行状況

Consensus2015作成のために国際蘇生連絡委員会 (International Liaison Committee on Resuscitation 以下ILCOR) の新生児部会では2011年4月のDenverでの北米小児科学会(PAS)の時からJ.Perlman教授とJonathan Wyllie 教授を共同座長とし、加盟地域のTask Force (アジア蘇生協議会からは田村正徳とソウル大学のHan-Suk Kim教授)とWorksheet author (日本からは杉浦崇浩と諫山哲哉がシステムティックレビュー専門家として参加) が各々2~3課題のWorksheetの作成に従事してきました。

この作業は新生児部会会合及びILCOR Neo Webinarによって年3~4回の頻度で検討が重ねられ、2015年2月1-5日にDallasで開催されるILCOR全体会議にて個々のWorksheetのエビデンスレベルと推奨の強さが確定し、引き続き田村正徳を含めたWriting authorがWorksheetを組み合わせたConsensus2015原案を作成します。前回Consensus2010の場合と同様に、AHA のウェブサイトで、“author 名”及び“Consensus on Science Statements”と“Draft Treatment Recommendations”は空欄にされたままで期間限定で公開される予定です。

その後は15名のWriting author (日本からはアジア蘇生協議会推薦で田村正徳参加) によりWorksheet最終案からのConsensus2015への文書化作業が行われて公表される予定ですので、それに先立ち前回ILCORのConsensus2010からNCPRガイドライン2010作成に做った作業の準備をしておく必要があります。

2. ILCORのConsensus2015を踏まえた日本版 NCPRガイドライン2015作成作業

- 2015年2月7日~10月19日
(時差を考慮して日本版公表は2015年10月20日予定)
- ILCORと守秘義務契約を結んだ3名*1の他に日本蘇生協議会と守秘義務契約を結んだNCPRガイドライン2015作成委員*2が集結
- 1回/週ペースで翻訳作業とそれに基づいた日本版新生児蘇生法のガイドライン2015作成作業遂行
(内容漏洩を防ぐため、原則直接会議)

<注>

- *1. ILCORと守秘義務契約を結んだ3名
田村正徳、杉浦崇浩、諫山哲哉
- *2. 日本蘇生協議会と守秘義務契約を結んだNCPRガイドライン2015作成委員メンバー
草川功、細野茂春、和田雅樹、杉浦崇浩、田村正徳等

3. 日本版NCPRガイドライン2015公表後の作業

以下については、随時推進していく予定です。

- (1) インストラクターを対象としたアップデート説明会
- (2) 公認講習会を行うための講習会テキストとインストラクターマニュアル等の作成
- (3) 新旧講習会の猶予期間

※ガイドライン改訂に伴う動向は、他頁(巻頭のごあいさつ及びNCPRトレーニングサイト今後の展開)をご参照ください。

NCPR講習会 開催だより

2014
NCPR

今回は宇治徳洲会病院と
島根県立大学出雲キャンパスのご紹介です。



宇治徳洲会病院

田中慎一郎 大平実子¹⁾ 江口比呂美²⁾

宇治徳洲会病院 小児科
1)宇治徳洲会病院NICU師長
2)宇治徳洲会病院前NICU師長

当院は京都府南部に位置し救急医療を中心とした地域の中核病院です。地域周産期センターとしてNCPRを普及しようということで少しずつ開催していたらいつの間にか50回を超えてしまいました。現在当院で行っている2つの講習会を中心にお話させていただこうと思います。

私(田中)は2007年にインストラクター資格を習得しましたが、当初は正式な講習会は開催せず主に院内の産科やNICUのスタッフを対象として2時間ほどの「ミニコース」「プチ講習会」を繰り返して行っていました。正式なコースを1回受講するよりも短い時間のコースを何度も受講してもらうほうが身につくのではと考えたことと、短い時間の方がスタッフの勤務の都合が付けやすいことが理由でした。この「ミニコース」は基本的に小規模であるため、思いついた時にできる、受講者が一人や二人でもできる、相手に合わせてカスタマイズが自由、とメリットも多かったため個人的には気に入っていたのですが、同様の講習会を院外でも開催するようになるとやはり正式コースの要請が増えてきたために2011年2月より正式コースを開始し、現在までに計54回、延べ552名の方に受講して頂いています。

「異文化交流」「事件は現場で起きている」

現在当院で実施しているコースは①院内講習会 ②出張講習会 の二本立てとなっています。①院内講習会は基本的に公募制とし院外からも広く参加者を募っています。公募の講習会が少ないこともあるのか、ついでに京都観光もできるから(?)なのか関西圏だけでなく東北や関東からも参加者があり毎回盛況です。最近は参加者すべて院外の方ということも増えてきました。公募で来られた方々に講習させて頂く機会を私は「異文化交流」もしくは「異種格闘技戦」と呼んでいるのですが、それぞれの施設での方針や体制や設備の違いというバックグラウンドに配慮しながら講義や実習を行うことは、院内のスタッフだけを相手にしている時と異なり緊

張感もありますが必ずお互いに新たな発見があり非常に勉強になります。また毎回全く違う様子の講習会になるので「今日は何んなことになるのだろう」とワクワクします。





②出張講習会は「事件は現場で起きている」を合言葉として特に力を入れて行っています。当院はドクターカーで開業産婦人科などに新生児の搬送に向かうことも多いのですが、以前から我々が到着するまでに新生児の状態がどんどん悪くなることがあるのが問題でした。そこで「ミニコース」の時代から周辺の開業産婦人科医院や助産師会などに積極的に向かい出張講習を行ってきました。もちろん蘇生人形などは持って行きますが、できるだけ出張先にある物品(空気の配管はないところがほとんど)ですし、SpO2モニターがない場合もあります)を用いてコースを行うことで、より実践的なコースを行うことができますし、各医院のドクターだけでなくほぼすべてのスタッフの方々と顔なじみになることでお互いに普段から相談しやすい関係にもなります。また、ありがたいことに最近では京都府内だけでなく遠方からも出張の依頼があり今までに沖縄・静岡・千葉・大阪で開催させて頂いております。



モチベーションの維持

NCPRコースを開催する目的は言うまでもなく「分娩時を中心とした新生児の異常に対して標準化されたプロトコルを周産期医療に関わるすべての職種で共有し実践できるようになること」であると思われるので当院で行っている講習会もまずはこのことを目標に開催してきました。このことは現在に至るまで変わってはいませんが、何度も講習会を行っているとその以外にも効用があることが分かってきました。専門コースを受講したスタッフにはできるだけそれ以降のコースのインストラクター補助をお願いしているのですが、これがかなりのモチベーションになるようです。もちろん受講生とインストラクターという立場の違いからプレッシャーもあると思いますが、お互いのインストラクションについて意見を交換しながらそれぞれがレベルアップを目指す姿を見られることが私にとっては講習会開催を続ける一番の理由かもしれません。

ライブ感のある講習会を

今までは産婦人科や小児科のスタッフを対象としてきましたが、自宅分娩などに対応する救急隊にも広げる予定です。また、院内外でのフォローアップ講習会の開催も行っていきます。

講習内容に関しては、今でも講義や実習の際に講習生の方々が眠ってしまうようなことはほとんどありませんが、もう一歩進んで笑いと掛け合いの要素の入ったお笑いライブ感のあるインタラクティブな講習会を創りあげたいと思っています。



島根県立大学出雲キャンパス

秦 幸吉¹⁾ 藤田 小矢香²⁾ 多々納 憂子¹⁾

1) 島根県立大学 看護学部看護学科
2) 島根県立大学 短期大学部専攻科

地域挙げ新生児蘇生への取組

島根県立大学出雲キャンパスは1995年に設置された島根県立看護短期大学が、2007年に島根県立大学総合政策学部(浜田キャンパス)、島根県立島根女子短期大学(松江キャンパス)との統合で島根県立大学短期大学部看護学科となり、2012年4月に4年制に移行して島根県立大学看護学部看護学科となり、今日に至っています。現在、看護学部253名、短期大学部専攻科48名(公衆衛生学30名、助産学18名)の学生が在籍しています。来年度からは短期大学部専攻科が廃止され、別科助産学専攻(定員18名)が開設されます。私は2012年4月より島根県立大学看護学部看護学科の教員として本学に勤務しております。

赴任当初から産婦人科医の立場から特色のある教育を行って行きたいと考えていまして、その一つとして、2012年10月に新生児蘇生法普及事業の新生児蘇生法「専門」コースインストラクターの資格を得ました。そして、新生児蘇生法普及事業に関わっておられる地元の先生方のご指導・ご支援をいただき、助産師を目指す学生には、卒業までに新生児蘇生法「専門」コースを終了認定させたいと企画しました。とりあえず、島根大学医学部で開催されている新生児蘇生講習会「専門」コースにインストラクターとして参加させていただき、希望する当大学の母性看護学、助産学の教員に新生児蘇生法「専門」コースを終了させました。ただ、講習会開催に必要な機材を購入する費用がなく、しばらくの間は学生を島根大学医学部での講習会に参加させようかと思っていました。

そんな中、事がうまく進むときはトントン拍子で進むと言いますが、正にそんな感じで2013年9月に文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC

事業)」が採択され、その予算の一部が10月に設置予定であった「しまね看護交流センター」整備に活用されることになりました。そしてその一環として、新生児蘇生法講習会開催のための専用機材一式を本年2月に購入しました。当初はインストラクターは私一人で講習会を開催する考えでしたが、島根大学医学部での講習会に参加して、一人ではとても大変だと気づきました。そこで他の教員に希望を聞いたところ、やる気のある2人の教員(助産師)がこの専用機材でトレーニングして、5月、6月に1人ずつ新生児蘇生講習会「専門」コースインストラクターを取得しました。そして、6月19日に第1回島根県立大学新生児蘇生講習会を開催する運びとなりました。その模様は山陰中央新報で取り上げていただきました。8月8、21、22日には助産学専攻の学生、病院勤務の助産師を対象に講習会を開催し、10月11日にも病院勤務の助産師を対象に第5回島根県立大学新生児蘇生講習会を開催いたしました。



講習会の様子



さらに今後も希望があれば、可能な限りご要望に応じて、講習会を随時開催する予定です。また、島根大学医学部との共催での講習会にも参加させていただく予定です。来年度は別科助産学専攻学生に対して、新生児蘇生講習会「専門」コースを必修にして開催することとしています。

島根県立大学は地域と大学の「共育・共創・共生」に向けた取り組みで、地域課題に寄与する人材育成、研究活動、社会人向けの研修プログラム開発などを通じて、本学の持つ「知」の観点から、地域との連携を重視した事業を進めています。その一つとして、この地域で周産期医療に携わる医療従事者に標準的な新生児の蘇生法に習熟していただき、周産期医療の向上に貢献しようと考えています。さらに、トレーニングを希望される方にはいつでも専用機材が使用できるように常に門戸を開放しています。

「分娩とは荒海での長い大航海を終えて帰ってきた船が港に着岸する大切なステージのように思っています。この着岸に失敗したら、せっかく苦労して終えた大航海が台無しになります。そのため、船が上手く着岸できるように最大の手助けをする必要があります。その手助けを充実させるために、周産期医療に携わるすべての医療従事者はこの新生児蘇生講習会で標準的な新生児蘇生法の理論と技術に習熟する必要があると思っています。」と私はいつも講習会を開催するに当たって話しています(甚だ、産科医の立場からの見解ではありませんが)。今後、この新生児蘇生法普及事業が盛んに

行われるよう、微力ながらお手伝いさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

島根県立大学出雲キャンパスは出雲平野の北西部にあり、出雲北山山系を背景とするキャンパス中央にある中庭は、四季折々様々な趣を呈してくれます。そして、その中庭を校舎が三日月状に取り囲んでいて、その景色はイングランドのバースにあるロイヤルクレセントを彷彿させてくれます。キャンパスから車で15分のところには、平成の大遷宮で賑わっている出雲大社があります。

島根県立大学出雲キャンパスの全景



北山山系を背景とする島根県立大学出雲キャンパスの晩秋の中庭

そして出雲には、豊かな自然があり、歴史と伝統が息づき、悠久の時間が流れています。当大学で新生児蘇生法講習会を受講され、出雲大社を参拝されては如何でしょうか。お待ちしております。



受講生と集合写真



出雲大社 (参道から国宝本殿千木を望む)